

「お米に込められた想い」

上越市立飯小学校 五年 佐藤 空青

「お米一つぶの中には、七人の神様がいらっしゃるんだよ」と、私が幼稚園の時にお父さんが教えてくれました。それ以来、お茶わんにくっついていている最後の一つぶのご飯を食べる時、「この一つぶに七人の神様がいるのかなあ……なぜだろう？」と思っ ていました。そして、ついにその意味が分かる時がきました。

私たち飯小学校の五年生は、今、田んぼで

稲を育てています。ドロドロした田んぼの中に、ほだしで入って、みんなで田植えをしました。初めての体験でも楽しかったです。それから、あぜの草かりや、稲の様子を観察するため、二回田んぼに行きました。小さかった苗が、長くなっ て、くさも太くなっ ていておどろきました。

田んぼの稲の他に、一人ずつペットボトル稲も育てています。ポットに入っ た小さな苗をペットボトルに植えました。初めのころは

土からよく雑草が生えたので、そのためにぬ
きました。夏休みはその稲を家に持ち帰り、
毎日観察して記録しています。葉の長さや、
くぎの太さなど、毎日変化があります。長さ
が変わらなかり、葉の色が黄色くなつた
時は心配になり、すぐに学校へ行つて、ひり
ようをもらいました。ひりようをあげると稲
が元気になり、安心しました。

お盆は二泊三日でおぼあちゃんちに泊まり
に行きました。そして、家に帰つてきた日に
とてもうれしいことがおきていました。

なんと、穂が出て花もさいていたのです。

お父さんもお母さんも、とても喜んでくれて
記念に写真を撮りました。とても感動しまし
た。稲の花は小さくて、白く上品で、かわい
い花です。

今では穂も次々と出てきて、九本の穂が花
をさかせながら、ゆらゆらと風になびいてい
ます。田んぼの稲も同じように穂が出て、順
調に成長していると思います。

秋には稲かりをして、私たちが育てたお米をみんなでたいて食べると思っています。私はその日かくることをとても楽しみにしています。毎日の稲の測定や水の管理、台風など天候への気配りなど大変なこともありますか、私は稲を育てて毎日観察していく中で、穂が出た時の喜びや、その穂が一つぶ一つぶ大きく実っていく楽しさを知ることが出来ました。

「お米一つぶの中には、七人の神様がいます」というのは、自然の恵みをたくさん受け、そして、作っている農家の人々の苦勞や、たくさんのお熱い思いがこめられているという意味が込められているんだと思います。

「米という漢字も、八十回、お百しようさんが手を加えたという意味も込められているんだよ」と、おじいちゃんが教えてくれました。

そんな人々の思いがたくさん込められたお米を、私はこ水からも残すことなく、一つぶ一つぶ感じしゃして食べていこうと思います。